



野菜の摂取量向上に向けた取組

健康福祉部保健医療局健康対策課

あいち食育いきいきプラン2020の目標

項目	基準年(H26)	実績値		目標(H32)
野菜の摂取量(成人1日あたりの摂取量)	265g	224g(H28)	272g(H29)	350g以上

数値：愛知県分(政令・中核市除く)

1 現状と課題

「平成29年国民健康・栄養調査」結果によると、愛知県の野菜摂取量は目標値である350gを下回っており、都道府県別野菜摂取状況においても平成24年は全国最下位、平成28年は下位群の状況であるため、野菜摂取量の増加を図る必要がある。

2 主な取組

(1) 平成29年度の取組実績と評価

平成28年度に引き続き、「生活習慣の改善にチャレンジしてみよう!」という県民の気運を高めるために、生活の身近な場所から健康情報を一斉に発信する「健康づくりチャレンジ推進事業」に取り組んだ。



啓発イベントの様子



あいち健康情報ステーションの様子
(平成29年度)

○啓発イベントの開催

開催日：平成30年3月3日・4日
開催場所：アスナル金山及び金山総合駅連絡通路橋
来場者数：10,268名(ステージイベント、食・運動・健康の体験型ブース)

○あいち健康情報ステーションの設置

平成30年2月1日から1か月間、協賛するスーパー、飲食店、社員食堂等849店舗(政令・中核市含む)設置し、健康情報を一斉に発信

【評価】

イベント参加者のうち約8割は健康づくりへの関心が高まったが、イベント、事業の認知度が低かったため、「あいち健康情報ステーション」等を活用した情報発信力の強化が必要である。

(2) 平成30年度以降の取組(予定)

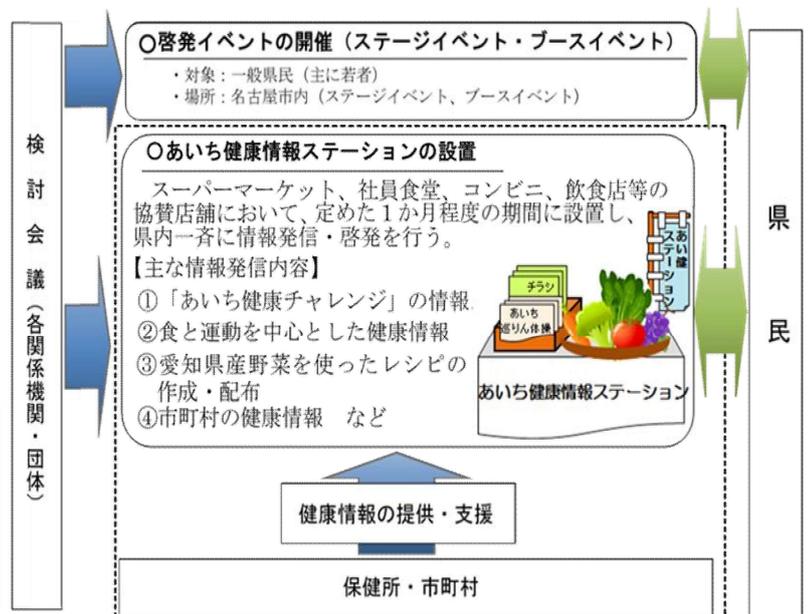
「健康づくりチャレンジ推進事業(平成28~30年度)」による県民への啓発を継続実施する。

平成30年度は、関係団体等が連携した自主的な企画・運営により「あいち健康情報ステーション」の設置及びイベントを開催する。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ

【スローガン】

- ・食：「食べて元気に もう1皿野菜を!」
- ・運動：「動いて元気に もう10分!」





学校給食における地域の産物の活用に向けた取組

教育委員会事務局保健体育スポーツ課健康学習室

あいち食育いきいきプラン 2020 の目標

項目	基準年	実績値		目標 (H32)
全食品数に占める県産食品数の割合	40.5%(H27)	38.8%(H28)	35.9%(H29)	45%以上
年間に使用した県産食品の種類	54 種類 (H26)	57 種類(H27)	57 種類(H28)	60 種類以上

1 現状と課題

平成 19 年度から、食育月間である6月に「愛知を食べる学校給食の日」を実施し、平成 23 年度からは、年3回（6月・秋・1月）に拡充した。しかし、①使用量が確保できない、②規格・サイズにあった食材が必要量確保できない、③価格が高い・安定していない等の理由により全食品数に占める県産食品数の割合は目標に届いていない。

今後は、地域の産物を学校給食に活用した食に関する指導がどのように児童生徒の地域の理解に繋がるのかを検証しながら、取り組んでいく必要がある。



2 主な取組

(1) 平成 29 年度の取組実績と評価

「愛知を食べる学校給食の日」を年3回実施した。また、栄養教諭等を対象とした「学校給食献立コンクール」において、「地場産物(愛知県産)を活用した魅力ある学校給食」をテーマとし、応募条件に“県産食材活用率 45%以上”を掲げて実施した。

【評価】

「学校給食献立コンクール」には、263作品の応募があり、審査結果とともに、入賞 15 作品が掲載された「給食・食育だより」を Web ページで情報発信すること等により、地域の食材と食文化の理解に繋がった。

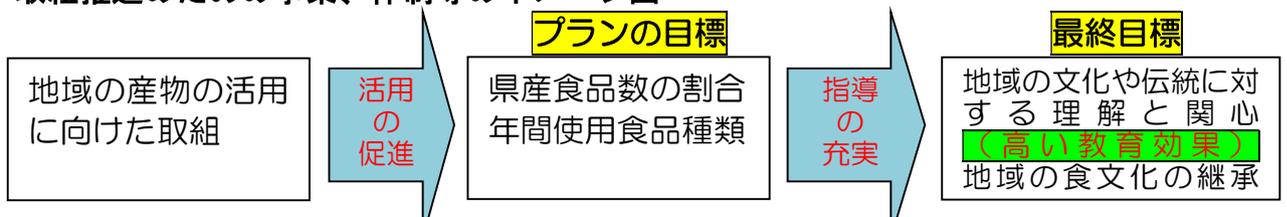


入賞作品の一例

(2) 平成 30 年度以降の取組 (予定)

引き続き「愛知を食べる学校給食の日」を実施し、愛知の自然の恵みの中で採れる地場産物への理解を深め、地域に伝わる食文化や食の加工技術に触れることにより、地域をより身近に感じ、より豊かな食生活を営もうとする意欲を高める。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図



郷土料理等地域の食文化の継承に向けた取組



農林水産部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2020 における位置づけ

1-2食を通じて豊かな心を育むために

(3) 日本の食文化や郷土料理等の理解と継承

イ 給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進

ウ 日本型食生活の推進、郷土料理等の地域の食文化の継承



1 現状と課題

平成 25 年 12 月の「和食；日本人の伝統的な食文化」ユネスコの無形文化遺産登録を契機に、伝統的な食文化の保護・継承の重要性が高まっており、本県に伝わる郷土料理等の食文化の理解を促進し継承していく必要がある。

2 主な取組

(1) 平成 29 年度の実績と評価

平成 28 年度に作成した「あいちの郷土料理レシピ 50 選（以下『レシピ 50 選』という。）を活用した行事を開催した。

ア 「あいち食育いきいきシンポジウム」

県民（202 名）を対象として、本県の郷土料理の魅力を紹介する基調講演や「地域で伝える郷土料理等の食文化」と題したパネルディスカッションを実施した。

イ 「郷土料理講習会」

地域での食育活動にも生かしていただくよう、食育推進ボランティアを対象に実施した。

名古屋文化短期大学の鳥居教授を講師とし、「かしわのひきずり」「酢味噌そうめん」「とうがんのくず煮・ごま酢和え」「鬼まんじゅう」等の郷土料理の講習を 2 回開催した。



シンポジウムの基調講演の様子



講習会で実習した郷土料理 5 品

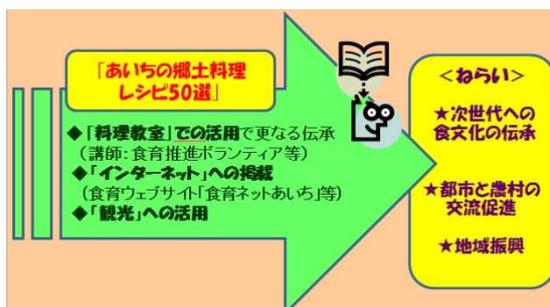
【評価】

「あいち食育いきいきシンポジウム」の参加者の約 9 割が「伝統的な料理や作法などを継承していく意欲が高まった」と事後アンケートで回答した。

(2) 平成 30 年度以降の取組（予定）

- ・ 「食育月間イベント」や「農林水産フェア」等県民を対象としたイベントにおいて、『レシピ 50 選』の紹介や郷土料理クイズ、豆つかみゲーム等を行い、食文化の理解を促す。
- ・ 食育推進ボランティアに、引き続き、『レシピ 50 選』を活用した料理教室等で、県内各地域での食文化継承に取り組んでもらうための支援及び働きかけを行っていく。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図



『レシピ 50 選』を活用した食育推進ボランティアや市町村等による料理教室等の開催を通じて、次世代への食文化の継承、都市と農村の交流促進、地域振興が図られる。



食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組

農林水産部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2020 の目標

項目	基準年 (H26)	実績値			目標 (H32)
		10.5 万人 (H27)	10.5 万人 (H28)	11.3 万人 (H29)	
食育推進ボランティアから 食育を学んだ人数	9.1 万人	10.5 万人 (H27)	10.5 万人 (H28)	11.3 万人 (H29)	10 万人以上/年間

1 現状と課題

「愛知県食育推進ボランティア（以下「ボランティア」という。）は、県民が健全な食生活を実践できるよう、県内各地域で様々な食育活動を行っており、平成 30 年 3 月末時点では、1,148 名が登録している。

各地域で食育活動に取り組んでいただいた結果、プランの目標である「年間 10 万人以上」を毎年達成し、今後も、継続的な取組となるよう県として必要な支援を行っていく。

一方でボランティア制度も 17 年を経過し、登録者の活動実態も様々であることから、活動の実態及び課題等について調査し、今後の支援方針を検討する。

2 主な取組

(1) 平成 29 年度の取組実績と評価

活動のテーマとして、29 年度は特に「食文化継承」「食品ロス削減」「野菜摂取量向上」に取り組んでもらうため、各テーマに関わる知識及び技術を習得する機会を提供した。

- ・「あいち食育いきいきシンポジウム(70 名参加)」及び「郷土料理講習会(2 回：48 名参加)」
- ・「あいちエコ食スタイル研修会(35 名参加)」及び「調理講習会(4 回：52 名参加)」
- ・「地域食育推進ボランティア研修交流会(7 か所：256 名参加)」

【評価】

テーマごとの啓発活動人数は、「食文化継承」が 40.4 千人、「食品ロス削減」が 9.9 千人、「野菜摂取量向上」は 49.2 千人であったが、更に意識的な取組の認識を高める必要がある。

(2) 平成 30 年度以降の取組（予定）

野菜摂取量向上と本県の農産物に対する理解を深めるために、「あいちの食育いきいきシンポジウム」及び「調理講習会」を開催し、知識及び技術の習得の機会を提供する。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図



食品ロス削減をテーマとした「あいちエコ食スタイル調理講習会」の様子